

平成25年度

事業報告

平成25年4月1日から

平成26年3月31日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、本年度の事業を実施した。

特に、平成 24 年 4 月 1 日付で公益財団法人に移行し、WCRP 日本委員会がさらに平和と調和への役割を果たしていくために、“より開かれ、より行動する WCRP 日本委員会”を目指して新たな組織体制をスタートした。

「共にすべてのいのちを守るための祈りと行動」の総合テーマのもと、①宗教者としての東日本大震災復興支援、②原子力エネルギーと現代文明について宗教者として問い続けること、③東アジアや中東地域の宗教者との対話交流の 3 つを重点的に取り組むサブテーマに据えて事業を推進した。

本年は、第 9 回世界宗教者平和会議（WCRP）世界大会が、オーストリア・ウィーンにおいて、「他者と共に生きる歓び」を総合テーマに開催され、約 100 の国と地域から 600 名を超える宗教代表者、国連関係者らが参加した。日本からも約 70 名が出席し、テーマに関する日本からの発信や核兵器の廃絶に向けた訴えかけをするなど、積極的に大会に参画した。

さらに、4 つの特別事業部門（タスクフォース）、①東日本大震災復興事業、②核兵器廃絶・軍縮、③国連ミレニアム開発目標（MDGs）、④平和教育による事業を実施した。

また、「平和のための宗教者研究集会」や「平和大学講座」をはじめとする学習会を通して、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

I. 事業部門

A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

事業の趣旨（目的）

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

(1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンズー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

なお、平成 25 年度に予定されていた第 8 回アジア宗教者平和会議（ACRP）大会は、WCRP 世界大会の開催が平成 24 年度から平成 25 年度に延期されたことを受け、平成 26 年度に実施されることとなった。

平成 25 年度の事業は以下の通り。

①第 9 回 WCRP 世界大会

第 9 回 WCRP 世界大会が、11 月 20 日から 22 日までオーストリア・ウィーン市内にあるヒルトン・ウィーン・アム・シュタットパークにおいて開催された。大会テーマは、『他者と共に生きる歓び—一人間の尊厳を守り、地球市民らしく、幸せを分かち合うための行動— (Welcoming the Other—Action for Human Dignity, Citizenship and Shared Well-being)』。約 100 の国と地域から 600 名を超える宗教代表者、国連・政府などの関係者らが参加。日本からは正式代表 10 名を含む約 70 名が参加した。

本大会は、KAICIID（アブドゥラー国王諸宗教・文化間対話のための国際センター）の協力のもと開催された。

期間中、全体会議、分科会、国連機関との特別セッション、宗教別・地域別会合などがもたれ、宗教者らが、紛争和解や難民問題の解決などについて議論を交わした。最終日には、平和に向けた協働を誓うウィーン宣言を全会一致で採択した。また、11 月 19 日には、女性・青年事前会議が、ウィーン市内にある KAICIID 本部で開催された。

②アジア宗教者平和会議（ACRP）執行委員会

期日：平成 25 年 6 月 8～9 日

会場：ムハマディア大学（インドネシア・マラン市）

概要：アジア 15 カ国から、諸宗教指導者である約 40 名の執行委員が参加し、平成 26 年 8 月に予定している第 8 回 ACRP 大会や軍縮・環境問題等についての議論が行われた。

③ヨーロッパ諸宗教指導者評議会との交流

期日：平成 25 年 5 月 15 日

会場：都内ホテル

概要：ヨーロッパ諸宗教指導者評議会のグナール・スタルセット議長を迎え、13 名の WCRP 日本委員会役員・関係者との会合が開催され、スタルセット議長のレクチャー、質疑応答・意見交換がなされた。

スタルセット議長のレクチャーでは、反ユダヤ・反イスラーム感情が強まっているヨーロッパの現状に触れながら、諸宗教間対話の重要性について解説した。

特に悪化しているシリア情勢に対する懸念を表し、諸宗教間の対話による和解の可能性について言及した。日本における少数派の宗教の状況や、人権の取り組みについての意見交換や議論が行われた。

④韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

概要は、下記「3. セミナー」の通り。

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジア平和共同体構築のための課題と実践」をテーマとするセミナーが開催された。

⑤ACRP 事務総長との会合

期日：平成 26 年 1 月 23 日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

概要：キム・スンゴン ACRP 事務総長が来日し、庭野日鏡 WCRP 日本委員会会長、畠山友利同事務局長と第 8 回 ACRP 大会や ACRP の運営について協議した。

(2) 東日本大震災復興事業

平成 23 年 3 月 13 日、被災地支援のための「WCRP 東日本大震災緊急勧募」を開始し、平成 23 年 7 月には、復興支援のための特別事業部門（タスクフォース）を立ち上げた。12 月には、宮城県仙台市にあるせんだい・みやぎ NPO センター内に担当デスクを置き（その後、平成 25 年 9 月に仙台市市民活動サポートセンター内にデスクを移動）、スタッフを派遣し、少なくとも 5 年間復興支援を実施することを決定した。復興への取り組みの方針として、①「失われたいのち」への追悼

と鎮魂、②「今を生きるいのち」への連帯、③「これからのいのち」への責任の3つを方針として掲げ、本年度も継続して、現地の宗教者やNPO等の支援団体と連携し復興事業を実施した。

また、平成25年3月～5月並びに平成26年3月～5月の期間、『東日本大震災をけっして忘れない』ための祈りと行動』をテーマに、「WCRP 震災復興キャンペーン2013」並びに同キャンペーン2014を展開し、復興支援募金、復興合同祈願式、復興支援ボランティア等を実施した。平成25年度の主な事業は以下の通り。

①復興に向けた宗教者円卓会議の開催

期日：平成25年5月13～14日

主催：(公財) WCRP 日本委員会

場所：コラッセふくしま (福島県福島市)

参加者：WCRP 関係者や被災地で支援活動に取り組む宗教者、行政担当者、医師、市民活動家など80名

目的：被災地の地元の方々や支援活動をしている関係者の意見を傾聴し、今後の宗教者の支援活動のあり方に反映する。

概要：「福島の課題」、「精神的ケア」、「原子力エネルギーと倫理性」、「まとめ」の4つのセッションが行われた。

セッション1では、福島県相馬市総務部長の青田稔氏が、行政の視点で相馬市震災から現在までの復興過程について報告し、孤独死など相馬市が抱えている課題に対する取り組みについて発題した。また、齋藤紀氏(福島市わたり病院医師)が、医学的データを示すとともに放射線生物学だけではなく社会病理学の必要性を述べた。また、宗教者より福島県伊達市の曹洞宗住職である久間泰弘師は、地域の人々の除染に対する感情や、将来への不安、支援の格差が地域内の分断を招いていることを説明し、それぞれの自己決定と選択を尊重することの重要性を語った。

セッション2では、大川原公年氏(福島県社会福祉協議会事務局長)が、仮設住宅での活動について報告した。また、長谷川健一氏(福島県飯舘村前田行政区長・福島県酪農業協同組合監事)は、原発事故直後、行政より公表された各地の放射線量よりも、自身が計測した数値のほうが高かったという事実などの行政による情報の混乱などによって、飯舘村の住民の避難が遅れたことを指摘した。また酪農家仲間が自殺したことにも触れ、より充実した支援体制を求めた。県内自主避難連絡会代表の酒井信裕氏は、母子避難世帯の多さや避難者間の行政支援の格差などを説明し、「残っている人も傷つき、避難していった人も後ろめたい思いに悩まされる」と自主避難者の苦悩と、こうした避難者への支援の課題について語った。曹洞宗住職の田中徳雲師は、自身の避難における心の葛藤について語った。避難先の福井から妻の実家の福島に移住するとき、長男が転居を拒んだ状況について話した。

セッション3では、曹洞宗住職の岡野定丸師が、僧侶として原発事故後の避難対応にあたった当時の様子について語り、避難における対応の不備について

指摘した。原子力エネルギーについて、あまりにも危険なものであるために、このエネルギーについてよく認識を深めれば、使用することを躊躇うことになると語った。片岡輝美氏は、自身が代表を務める「放射能から子どものいのちを守る会」の活動を通して聞いた避難者の声を紹介した。特に母親からの声として、放射能被害への対応によって子どもが学校の中でいじめられたことなどの事例を語り、母親が抱える苦悩について指摘した。さらに、江川和弥氏（子どもが自然に遊ぶ楽校ネット事務局長）は、震災後から子ども支援を行う中で感じた福島の子どもの状況について、心身が不安定になっていると述べ、子どもが安心でき、安全で自由な場所、そして子どもに寄り添ってくれる人が必要であると語った。東京電力福島第一原子力発電所で働く息子をもつ木田節子氏は、原発事故直後より福島県富岡町から茨城県水戸市に移り、避難生活をおくっている自身の心の苦しみや、息子が原発関連で働いていることの葛藤について述べた。上智大学グリーンケア研究所所長の島菌進氏は、原子力エネルギーと倫理性の問題について、「特定の人々のいのちを傷つけることを織り込まざるをえない科学技術」や「原発を支えてきたシステムがもつ欺瞞性」という観点から論じた。

②復興支援ボランティア

期間：6月29～30日、7月12～14日、7月31日～8月11日、8月4～6日、8月16～21日

概要：自由な外遊びをする機会を提供するために野外キャンプを福島の「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」とともに実施した。「外遊びフェスティバル」「ぼんた山元気楽校」など。参加した子どもの延べ人数：約2,000名、派遣したボランティアの延べ人数：約30名。

③祈りと合同祈願式

平成25年並びに26年の3月11日～21日の11日間、14:46に1分間の黙とうを捧げた。平成26年3月12日には、福島県南相馬市において「東日本大震災の追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願式」を主催した。

日時：平成26年3月12日 14:00～15:00

場所：カトリック原町教会（福島県南相馬市）

参加者：WCRP日本委員会役員・地元宗教者など約50名

（仏教、神道、教派神道、キリスト教、新宗教、イスラーム等）

概要：

浪江町での祈り

宗教宗派別の祈り（8つの宗教宗派の代表者）

黙とう

④実践宗教学寄附講座

平成24年度から東北大学大学院文学研究科で開始された。各宗教の死に対

する考え方や人々の悲しみ、苦しみなどに宗教者が取り組む上でのグリーンケア、緩和ケア、カウンセリングなどの手法を学ぶことを目的としている。WCRP 日本委員会は、同講座の運営委員として関わり、関係する宗教者も受講生として派遣した。本年度は、4回実施された。

⑤三陸海の盆

NPO 法人遠野まごころネットと連携し、8月11日に岩手県大船渡市で実施された「三陸海の盆」を支援した。約3,000名が来場し、被災地の鎮魂と追悼と早期復興を祈念し、三陸地方に伝わる伝統芸能や踊りなどが披露された。

⑥宗教・文化復興支援プロジェクト

被災地の宗教施設の復旧を目的に地元の支援団体と合同で行っている。天井まで津波で浸水し多くの檀家や関係者が犠牲となった宮城県気仙沼市の臨濟宗妙心寺派地福寺における「祈りの広場」の整備、同山元町の普門寺における「骨塚」の整備への取り組みを行った。

⑦傾聴活動（カフェ・デ・モンク）ラジオ番組などの心のケアの取り組み

宗教者、医師、学者などが連携して進める心のケアで、WCRP 日本委員会も運営委員を務めている。

ラジオ番組「Café de Monk」は、平成22年10月からはじまり、毎週宮城県 Date FM、エフエム岩手で放送している。

⑧ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス担い手育成事業

WCRP 日本委員会とせんだい・みやぎ NPO センターとの共催事業として、平成25年10月～平成26年3月まで実施された。震災復興と東北活性のために「志」をもって活動する人材に対し、現地の課題解決に必要な知識、情報を提供し、事業構想モデル・地域デザインプランをゼミナール形式で専門家と共に磨き上げていくことを目的とする。

⑨第6回日本スピリチュアルケア学会／第10回アジア太平洋パストラルケア・カウンセリング学会の合同学術大会

WCRP 日本委員会が協力。「地水火風空～現代の自然・科学・技術の状況における宗教とケア」をテーマにさまざまな研究者や実践者による報告が行われた。また、各種団体の活動報告パネル展も行われ、諸宗教による震災への取り組みとして WCRP 日本委員会もパネル展示を行った。

2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

(1) 国際活動についての学習会

期日：平成 25 年 6 月 21 日

場所：京都市国際交流会館（京都府京都市）

参加者：約 80 名

概要：ウィリアム・ベンドレイ WCRP 国際委員会事務総長が、WCRP の活動について報告し、また第 9 回世界大会のテーマ並びに意義について解説した。

(2) 難民保護に関するシンポジウム

期日：平成 25 年 6 月 20 日 13:00～16:50

主催：国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所

共催：WCRP 日本委員会

明治大学

テーマ：信仰が支える難民保護

場所：国連大学（東京都渋谷区）

参加者：約 500 名

概要：ヨハン・セルス UNHCR 駐日代表、逢沢一郎 UNHCR 国会議員連盟会長らの開会挨拶に続き、ウィリアム・ベンドレイ WCRP 国際委員会事務総長が基調講演を行った。その後、第一部「友好的コミュニティの構築と難民保護のエンパワーメントへの支援」、第二部「信仰が支える難民保護：その実践」と題したパネルディスカッションが行われ、WCRP 日本委員会より樋口美作監事がパネリストとして登壇した。

(3) 第 40 回平和のための宗教者研究集会

期日：平成 25 年 9 月 6 日

場所：芳澍女学院情報国際専門学校（東京都杉並区）

参加者：約 200 名

テーマ：Welcoming the Other（他者を歓迎する）：人間の尊厳、市民権、そ
し

て分かち合われる幸福のための行動（仮訳）

プログラム概要：

開会挨拶：庭野日鑛 WCRP 日本委員会会長・立正佼成会会長

基調発題：眞田芳憲 WCRP 日本委員会理事・同平和研究所所長

各タスクフォースからの発表

コメント：

小尾尚子 UNHCR 駐日事務所副代表

西出勇志 共同通信編集委員兼論説委員

小原克博 同志社大学一神教学際研究センター長

閉会挨拶：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問

(4) 平和大学講座

期日：平成 26 年 3 月 6 日

場所：南山大学名古屋キャンパス（愛知県名古屋市）

参加者：約 200 名

テーマ：第 9 回 WCRP 世界大会から学ぶ

プログラム概要：

開会挨拶：前島宗甫 WCRP 日本委員会理事・日本キリスト教協議会元
総幹事

趣旨説明：眞田芳憲 WCRP 日本委員会理事・同平和研究所所長

基調発題：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問

パネルディスカッション

コーディネーター：藺田稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司

パネリスト：三宅善信 WCRP 日本委員会理事・金光教泉尾教会総長

田中庸仁 WCRP 日本委員会理事・真生会会長

樋口美作 WCRP 日本委員会監事・日本ムスリム協会理事

森脇友紀子 WCRP 日本委員会理事・女性部会部会長・カ

トリック東京大司教区アレリヤ会会長

質疑応答

総括・まとめ：眞田芳憲 WCRP 日本委員会理事・同平和研究所所長

(5) 第 9 回 WCRP 世界大会に向けた学習会

期日：平成 25 年 10 月 8 日

場所：東京普門館（東京都杉並区）

参加者：約 50 名

テーマ：汚染水と国際法——近隣諸国および国際社会への説明責任

講師：中田達也 東京海洋大学大学院准教授

(6) 第 9 回 WCRP 世界大会報告会

期日：平成 26 年 1 月 29 日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

参加者：約 300 名

プログラム概要：

開会挨拶：庭野日鑛 WCRP 日本委員会会長・立正佼成会会長

大会概要報告：畠山友利 WCRP 日本委員会事務局長

参加者からの報告：

森脇友紀子 WCRP 日本委員会理事・女性部会部会長・カトリック

東京大司教区アレリヤ会会長

樋口美作 WCRP 日本委員会監事・日本ムスリム協会理事

國富敬二 WCRP 日本委員会理事・立正佼成会東京教区長

西出勇志 共同通信社編集委員兼論説委員
KAICIID についての報告：

庭野光祥 WCRP 日本委員会理事・立正佼成会次代会長
質疑応答

閉会挨拶：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問

3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

期日：平成 25 年 7 月 4～6 日

場所：立正佼成会横浜普門館（神奈川県横浜市）

テーマ：東北アジア平和共同体構築のための課題と実践

参加者：日本・中国・韓国の宗教者、学者、市民団体の代表など約 50 名

プログラム概要：

歓迎レセプション

公開講座（約 100 名が参加）

基調発題

ービュン・ジンヒュン 韓国宗教人平和会議 (KCRP) 事務総長

ー黄信陽 中国宗教者和平委員会 (CCRP) 副事務総長

ーキム・ヨンジュ KCRP 共同会長

ー眞田芳憲 WCRP 日本委員会平和研究所所長

特別セッション：東日本大震災復興事業について

セッション1：いのちと自然環境

主な発題者

ーイ・チャンス ソウル大学教授

ー華夏 中国政法大学比較法学研究院教授

ー藺田稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司

ー馬玉祥 中国宗教者和平委員会副部長

セッション2：いのちと国際協力

主な発題者

ー松井ケティ WCRP 日本委員会女性部会委員・清泉女子大学教授

ー山本俊正 WCRP 日本委員会特別会員・関西学院大学教授

ー馬俊威 中国現代国際関係研究院日本研究所副所長

ー大西英玄 WCRP 日本委員会活動委員・音羽山清水寺執事補

ーキム・ヨンフィ 韓国天道教

ーヤン・ドクチャン 韓国宗教人平和会議理事・カトリック

セッション3：まとめ

内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。また、本年度セミナーの報告書を平成26年度に発刊するため、翻訳・編集作業を行った。

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

①学習会の開催

期日：平成25年5月22日

場所：東京普門館（東京都杉並区）

参加者：約20名

概要：平成25年4月にスイス・ジュネーブで開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議第2回準備委員会に参加した神谷昌道師（立正佼成会国連代表）を講師に、同委員会の内容と世界の核軍縮の動向について学習した。

②広島・長崎平和関連行事への参画

【広島】

平成25年8月6日早朝、広島県宗教連盟主催の祈りに参加し、その後広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に諸宗教の連合体として、樋口美作監事（日本ムスリム協会理事）、松下日肆理事（本門法華宗大本山妙蓮寺貫首）らが出席した。

【長崎】

平成25年8月7日に、長崎県宗教者懇話会が主催する平和交流会に出席し、8日には、原爆落下中心地公園で開催された第41回原爆殉難者慰霊祭に参列した。WCRP日本委員会からは、田中庸仁理事（真生会会長）、河田尚子女性部会委員（アル・アマーナ代表）らが参加した。また、8月9日、原爆落下中心地で行われた長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列した。

③メキシコ外務省主催「核兵器の人的影響に関する第2回国際会議」・核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）主催市民社会フォーラム

平成26年2月11～15日にメキシコ・ナヤリで開催された両会議にWCRP日本委員会より畠山友利事務局長が参画した。核の使用による人道的・環境的・開発的影響について議論された。また、帰国後の3月28日には、東京都内で報告会が開催され、日本から参加した11名の代表者の1人として、参加し、報告した。

④平和と核兵器について考える宗教者会議 in 広島

期日：平成25年9月13日

場所：広島国際会議場（広島県広島市）

参加者：約80名

概要：

開会挨拶：松下日肆 WCRP 日本委員会理事・本門法華宗大本山妙蓮寺
貫首

久保田訓章 広島県宗教連盟理事長・広島東照宮宮司

セッション1 「核兵器廃絶の課題」

発題者

ー秋葉忠利 前広島市長

ー石井富美子 被爆者代表

セッション2 「核廃絶への人道的アプローチ」

発題者

ースティーブン・リーパー 広島平和文化センター前理事長

セッション3 「原子力エネルギー問題」

発題者

ー田城 明 中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター長

⑤「宗教指導者と共同体のための核軍縮に関する実践情報ガイド」日本語版出版
記念イベント

期日：平成 25 年 12 月 13 日

場所：東京普門館（東京都杉並区）

参加者：約 30 名

概要：同ガイドの著者アラン・ウェア氏（核不拡散・軍縮議員連盟国際コーディネーター）や杉野恭一 WCRP 国際副事務総長を講師に、同ガイドの内容をもとに、非核地帯設置の重要性や核廃絶に向けた取り組みについて協議し、その活用方法について議論した。

⑥「2020 Vision」キャンペーン

2020 年までに核兵器廃絶を目指すために、平和首長会議が推進している同キャンペーンに対して、資金的な支援を実施した。また、平成 26 年 3 月 17 日には、湯浅敏郎 広島平和文化センター常務理事と会合を持ち、核兵器廃絶に向けた活動についての意見交換を行った。

⑦核兵器廃絶・軍縮タスクフォースの会合を 4 回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 国連ミレニアム開発目標 (MDGs) 達成のための取り組み

①「スタンドアップ・テイクアクション・キャンペーン」への協力

NGO のネットワークである「動く→動かす」が推進する同キャンペーンの後援団体として参画した。宗教団体を中心として、MDGs 達成を目的とする同キャンペーンの参画を呼びかけた。

②学習会の開催

期日：平成 25 年 5 月 21 日

場所：JICA 地球ひろば（東京都新宿区）

参加者：約 15 名

講師：国連 WFP（世界食糧計画）日本事務所支援調整官 焼家直絵氏

③学習会の開催

期日：平成 25 年 7 月 11 日

場所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

参加者：約 15 名

講師：東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 土佐桂子氏

テーマ：ミャンマーの宗教事情：宗教対立と福祉運動

④国連ミレニアム開発目標（MDGs）タスクフォースの会合を 5 回開催し、事業についての協議を行った。

（3）平和教育の取り組み

①学習会の開催

期日：平成 25 年 6 月 1 日

場所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

参加者：約 15 名

講師：清泉女子大学地球市民学科教授 松井ケティ氏

テーマ：平和教育とは

②平和教育タスクフォース会合を 5 回開催し、平和教育に関する調査や事業案についての協議を行った。

5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。平成 25 年度は、以下に概要がある通り 7 回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約 800 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 400 部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

（1）研究会

①第 1 回研究会

期日：平成 25 年 5 月 7 日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：眞田芳憲 WCRP 日本委員会平和研究所所長

(中央大学名誉教授)

テーマ：「人間の尊厳から生命の尊厳へのパラダイム・シフトと新しい人権論の構築に向けて」

②第2回研究会

期日：平成25年6月18日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：黒田壽郎 WCRP 日本委員会平和研究所所員

(国際大学名誉教授)

テーマ：「文明化と脱宗教化」

③第3回研究会

期日：平成25年7月24日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：ムケンゲシャイ・マタタ オリエンズ宗教研究所所長

テーマ：「多文化共有社会から見た隣人」

④第4回研究会

期日：平成25年9月19日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：佐藤純一 WCRP 日本委員会平和研究所所員

(国際メタテクニカテクノロジー研究センター所長)

テーマ：「除染活動を市民活動の具体例から考える」

⑤第5回研究会

期日：平成25年10月23日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：ホアン・マシア WCRP 日本委員会平和研究所所員・イエズス会司祭

テーマ：「もう一つの東洋——レイモン・パニカーの著作を手がかりに」

⑥第6回研究会

期日：平成26年2月12日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：山崎龍明 WCRP 日本委員会平和研究所副所長

(武蔵野大学教授)

テーマ：「近代日本における仏教界の動向——戦争と平和をめぐる」

⑦第7回研究会（合宿）

期日：平成26年3月26日～27日

会場：神奈川県足柄下郡

発表者・テーマ：

— 藪田稔 WCRP 日本委員会平和研究所所員

(京都大学名誉教授・秩父神社宮司)

テーマ「神社神道の立場から3.11被災地の復興に取り組む」

— 西原廉太 WCRP 日本委員会平和研究所所員

(立教大学副総長・教授)

テーマ「世界教会協議会（WCC）第10回総会報告」

—山田経三 WCRP 日本委員会平和研究所所員（イエズス会司祭）

テーマ「教皇フランシスコ——第2バチカン公会議の新しい息吹」

6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に資するため、青少年を対象としたいのちに関する意識調査などを実施している。

(1) いのちに関する学習会

不特定多数の人々を対象として、啓発活動の一環として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会を以下の通り開催した。

①第1回いのちに関する学習会

期日：平成25年10月11～12日

場所：宮城県気仙沼市「本吉絆つながりたい」、同東松島市「創る村」

参加者：11名

概要：障がい児・者をもつ母親により平成25年1月に立ち上げられた団体である「本吉絆つながりたい」を訪問し、障がいをもつ方々が震災でどのような影響を受け、また避難所生活の中での困難な状況について学び、今後の事前の対応や準備のあり方について意見交換をした。また、音楽を通じた人間教育に力を入れている「創る村」では、高齢者の現状について学んだ。

②第2回いのちに関する学習会

期日：平成26年2月19日

場所：聖心女子大学（東京都渋谷区）

参加者：約30名

テーマ：持続可能な開発のための教育

講演者：永田佳之 聖心女子大学文学部教授

(2) いのちについてのアンケート

平成23年3月1日から7月末の期間、平和教育・倫理教育に資するため、15歳から25歳の青年男女を対象に同アンケート調査を実施し、12の学校・団体の約1,440名からの回答を集計し、その結果のまとめ・分析を行った。さらに、平成24年度に宗教立ではない教育機関を中心として、第2次アンケート調査を実施した。分析結果のまとめと平和教育のための提案書を冊子として出版するための準備を行った。

同アンケートでは、「いのち」に関連する21の質問が設定され、質問は、次の4つのカテゴリーに大別される。1つは、「いのち」そのものについての考えに関するもので、「いのち」のイメージや、いのちを意識するときはどうような

ときか、また、自分の「いのち」について感じることなどが設定された。その中で、自殺したい、死にたいと考えたことがあるかどうかを問う質問を含め、青少年の自殺・自死についての意識を調査した。

2つ目は、生死に関する質問である。「いのち」が、その時間的なつながりの中で、どのように考えられているかを問うため、生きること・死ぬこと、または死後の世界について質問が設定された。

3つ目は、周囲の人との関係性の中での「いのち」のあり方についての設問となっている。身近な親しい人のいのち、または、他人のいのちについての設問や、親からの愛情の実感の有無などについての質問となっている。そこから、「いのち」の大切さを他者との関係性の中で、どう実感し、どう行動に表しているのかを調査した。

4つ目は、「いのち」を大切にするための教育に関する設問である。学校あるいは親や周りの人から、「いのち」の大切さを学んだことがあるか、心に残っていることは何かを問うことで、「いのち」の大切さについての教育の現状を把握し、さらに、今後の平和教育や倫理教育の実践につなげるための質問が設定された。

(3) 宗教別学習会

各宗教についての相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成 26 年 3 月 24～25 日

会場：神宮（三重県伊勢市）

参加者：15 名

プログラム概要：

神宮外宮・せんぐう館・内宮での正式参拝・見学

また、宗教別学習会に先立ち、平成 26 年 2 月 27 日に東京普門館において、藺田稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司を講師として、「神宮とは一式年遷宮の意義―」をテーマに事前学習会を実施した。

7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るため、サマーキャンプや日本と韓国の青年の交流などのプログラムを実施している。

(1) サマーキャンプ 2013

各宗教についての体験学習や分科会を行い、相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成 25 年 9 月 14～16 日

会場：秩父神社（埼玉県秩父市）・埼玉県青少年総合野外活動センター

参加者：24名（8教団）

テーマ：Heart to Heart——これから私たちができること from 秩父——

プログラム概要

秩父神社参拝・開講式

各教団紹介

諸宗教間対話のワークショップ（ロールプレイ等）

「スタンドアップキャンペーン」の参画

講演：東日本の現状と支援活動

班ごとのディスカッション

講演：福島での子どもの活動

（2）青年部会発足40周年記念事業

期日：平成26年3月8日

場所：浄土宗大本山増上寺（東京都港区）

参加者：約250名

テーマ：Link with faith

概要：

導入部：平和活動FES（分科会）

「地域における宗教者の実践」

－アドバイザー：奥田知志 NPO 法人北九州ホームレス支援機構理事長

「核兵器廃絶・軍縮」

－アドバイザー：土橋道子 NPO 法人ヒロシマ宗教協力平和センター

「国連との連携」

－アドバイザー：中野寛子 公益財団法人日本ユニセフ協会

「震災復興」

－アドバイザー：篠原祥哲 WCRP 日本委員会仙台事務所長

第1部：記念式典

開会挨拶：石川清哲 WCRP 日本委員会青年部会幹事長・本門法華宗宗徒

祝辞：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問

早水研（公財）日本ユニセフ協会専務理事

講演：奥田知志 NPO 法人北九州ホームレス支援機構理事長

「宗教と地域社会への支援」

平和活動FESからの報告：

山形宗湛 WCRP 日本委員会青年部会幹事・比叡山延暦寺

青年部会40周年のあゆみ：

村上泰教 WCRP 日本委員会青年部会幹事・石鎚山真言宗総本山
極楽寺教学部長

宣言文発表：石川清哲 WCRP 日本委員会青年部会幹事長

平和の祈り

閉会挨拶：山下敦司 WCRP 日本委員会青年部会幹事・弓矢八幡青年部長

第2部：レセプション

小林恵太 WCRP 日本委員会青年部会副幹事長（カトリックアトムメントのフランシスコ会修道士）の開会挨拶に続き、青木芳尚 浄土宗増上寺執事、伊東政浩 全日本仏教青年会理事長、三宅光雄 WCRP 日本委員会評議員（金光教泉尾教会教会長）が祝辞を述べた。参加者は交流を深め、最後に坪内教至 同青年部会事務局長（立正佼成会青年本部）が謝辞を述べ、閉会した。

詳細は、会報「WCRP」平成26年4月号に掲載。

（3）日韓青年交流プログラムの実施

日本と韓国の青年交流は、2年に1度実施し、交互に日本と韓国を訪問している。各国20～30名の青年が参加し、ホームステイや分科会、現地の宗教施設訪問などを通してそれぞれの国の文化や宗教を学び、相互理解を深めている。

期日：平成25年7月27～30日

場所：日本聖公会札幌キリスト教会、札幌ハウスユースホステル（北海道札幌市）

参加者：63名

テーマ：東アジアの平和を促進するため、日韓の青年宗教者の役割を探る

概要：

テーマ別ディスカッション

「自殺防止」、「ホームレス支援」、「震災復興」、「心のケア」

講演：植松 誠 WCRP 日本委員会理事・日本聖公会首座主教

ホームステイ等

8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

（1）マスコミ関係者との情報交換

①プレスリリース

平成25年度は、35のプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付した。

②記者懇談会

平成25年6月21日、京都市内において、京都記者クラブを中心とした宗教関係の記者の方々と記者懇談会を開催した。約20名の記者が参加し、第9回世界大会のあり方、WCRP 日本委員会の平和に向けての取り組みなどについて意見交換を行った。

(2) ホームページ

ホームページを通して、事業の成果報告や告知を行った。随時データ更新するとともに、より分かりやすくなるようデザインを変更した。また、ホームページを通じて、広く一般に学習会等への参加をよびかけ、その申し込みの受付を行い、市民からの問い合わせに対応した。

(3) 出版

①機関誌「WCRP」

毎月 3,000 部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連や NGO 関係者並びにマスコミ関係者等、約 2,000 部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対し、年間購読料 1,000 円で送付した。

②平成 24 年度活動報告

平成 25 年 9 月に、平成 24 年度活動報告を 3,000 部発行し、WCRP 日本委員会関係者・賛助会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に、2,600 部を無料配布した。

また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③イスラーム：平和のメッセージ

アフガニスタン等のイスラーム圏における平和促進とイスラームに対する正しい理解を求めるとともに、子どもたちの平和教育に貢献することを目的として 10,000 部を発行し、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

④「WCRP 創設 40 周年記念事業」記録集

平成 22 年 9 月、平成 23 年 1 月に行われた同記念事業の内容や成果をまとめた報告書を 1,000 部発行し、関係者のみならず、宗教者・大学・マスコミ関係者などに約 200 部を無料で配布し、また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価 (500 円) で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

⑤書籍「平和のための宗教 対話と協力 7」

第 1 部は、平成 25 年 3 月に開催された平成 24 年度平和大学講座「現代文明に生きる私たちに問われているもの——智から智慧への転換をめざして——」を特集し、第 2 部では、平成 24 年度に実施された WCRP 日本委員会平和研究所の研究会での研究発表を収録した。

平成 26 年 2 月、800 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 400 部を無料で配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価 (800 円) で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

⑥写真グラフ「WCRPIX」

平成 25 年 11 月に開催された第 9 回 WCRP 世界大会の写真報告書を平成 26 年 2 月に発行し、ホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価 (400 円)

で提供した。

⑦「第39回平和のための宗教者研究集会」報告書

平成25年1月に開催された同研究集会の報告書を平成26年3月に発行し、ホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価（500円）で提供した。

II. 法人運営部門

1. 法務に関する業務

- (1) 内閣府への報告等及び登記事務他
- (2) 法人に関する業務

2. 会議に関する業務

(1) 評議員会

①第5回評議員会

期日：平成25年6月21日

会場：京都市国際交流会館（京都府京都市）

②第6回評議員会

期日：平成26年1月29日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

(2) 理事会

①第6回理事会

期日：平成25年6月6日

会場：浄土宗大本山増上寺（東京都港区）

②第7回理事会

期日：平成25年10月19日

会場：日本聖公会京都教区教区センター（京都府京都市）

③第8回理事会

期日：平成26年1月29日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

④第9回理事会

期日：平成26年3月6日

会場：南山大学名古屋キャンパス（愛知県名古屋市）

(3) 評議員選定委員会

なし

(4) その他諸会議の運営及び記録他

①総合企画委員会

7回開催

3. 監査に関する業務

平成 25 年 6 月 3 日に実施

4. 財務に関する業務

(1) 資産運用及び管理に関する業務

(2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

(3) 税額控除に係る証明を取得し、寄附金支出者が税額控除を受けられるようになった。

5. 文書管理に関する業務

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

6. 人事及び福利厚生に関する業務

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

7. 庶務に関する業務

① 什器備品、印刷物、公印等の管理他

② その他どの部門にも属さない事項の処理他

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上

平成 26 年 5 月 22 日

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会